

特集

東京オリンピック聖火リレーが被災した市街地内をつなぐ

「Hope Lights Our Way／希望の道を、つなごう。」をコンセプトにした東京五輪聖火リレーが、6月4日(金)、糸魚川市から新潟県内リレーをスタートしました。

沿道には、聖火ランナーを応援するたくさんの拍手と笑顔。

大火から5年目を迎え、復興まちづくりで目指した「カタイ絆でよみがえる 笑顔の街道 糸魚川」の姿がありました。

多様な過ごし方

本町通り(旧加賀街道)沿いは、かつて宿場町として栄え、雁木が連なるまちなみや酒蔵などの歴史的資源が多く残っていました。今、本町通りでは、糸魚川らしいまちなみの再生とともに、電線地中化や道路の美装化にも取り組んでいます。また、駅北広場キターレでは、平日昼間は、健康運動で心身の健康づくりを楽しむ高齢者、夕方は、勉強のために訪れる学生の姿が見られるほか、休日は、家族連れが防災やものづくりのワークショップを体験するなど、多様な過ごし方が生まれています。

広がる絆の輪

子どもが裸足で駆け回ってもケガをしないようにと、芝生がある市民公園の管理に関わる地元のご夫婦。自治会による健康カフェやお楽しみ会は、住民の交流の場となっています。被災3区の子どもたちでつくる駅北火の用心夜回り隊は、大火があった12月22日に毎年、火の用心を呼びかけます。駅北地区の若者が中心メンバーのEKIKITA WORKSは、市民

公園を会場にイルミネーション「ミライト」の点灯イベントを始めました。今では、大火を次世代に語り継ぎ、にぎわいある糸魚川の明るい未来につながる行事となりました。これらは、地域の方々の連携によって生まれてきたもので、まちに絆の輪が広がっています。



トーチをつなぐ東京2020オリンピック聖火ランナー
第9走者の水島大輔さん(左)と次のランナー本間寛道さん(右)

大役を果たした水島さんと本間さん。お二人とも駅北大火で被災しましたが、その後、経営する店舗を再開。沿道の拍手に笑顔で応えていました。

これからも、人と地域がつながり絆の輪を広げ、笑顔あふれるまちを目指します。



第12歩!

「発見!! “お母さん”の野菜市」

白馬通りにある「ありがたや」さんの店先では、毎週水曜日の9時頃から野菜市が開催されています。店主に場所を借りて、野菜を販売しているのは、大野区在住の“お母さん”。野菜市を始めてから5年が経つそう。

訪れたこの日、採れたての野菜や手作りの漬物が沢山並び、「毎週ここで買い物が出来て助かる」と、お客さんの喜ぶ声が聞こえてきました。駅北地区では、ほかにも土曜楽市やキターレ週末市などで旬野菜を購入できますので、ぜひお立ち寄りください。

